

## 近未来・目指す歯科技工士像とは

AI（人工知能）の出現により、社会全体がかつてないスピードで変革を遂げています。これまで長らく旧態依然とした体制が続いてきた歯科技工界も、デジタル歯科技工技術の進展により、急激な変化の波に直面しています。

他業種では「AIに仕事を奪われるのではなく、AIを使いこなす人に仕事を奪われる」といった言葉が注目されていますが、これは歯科技工士の世界にも当てはまると考えられます。今後は、技術力だけでなく、デジタルツールを柔軟に取り入れ活用できるスキルが求められる時代です。

さらに、本年度の歯科技工士養成校への入学者の約7割が女性であるという現状を鑑みると、今後の歯科技工所運営においては、性別や年齢に関係なく誰もが活躍できる、多様性に富んだ働き方や経営スタイルの構築が不可欠となります。

近未来の歯科技工所にとって重要なのは、デジタル化への対応だけでなく、年齢構成や男女比、さらには産休・育休・介護休暇などの制度を含めた職場環境の現状把握と、それに基づいた職場改善の取り組みです。歯科技工士としての専門性を発揮しつつ、持続可能で働きやすい環境をいかに構築していくかが、これからの大きな課題となるでしょう。

本講演では、日本歯科技工士会が現在進めている改革の取り組みを中心に、これからの時代に求められる歯科技工士像について、皆さまと共に考えてまいりたいと思います。